

いていましたが、なるほどと思いました。基本単語は不規則活用をするものが少なくありません。活用は全ての形を一度に覚えられれば面倒はないのですが、どうしても覚えにくい場合には、まずは会話に出てきやすい「私」と「君」に対応する形を覚えると和訳や作文、朗読は攻略しやすいと思います。

文法説明とともに会話文も載せている教科書というと分厚いものになりがちです。この分厚い教科書をやりきらないと4級の試験を受けられないと思うと、せっかくの意欲がしぼんでしまいそうです。ですから、そういう本で勉強することはお勧めしません。4級や3級の過去問2～3回分を丁寧に勉強すればほぼ対応できます。作文や和訳に恐れなくて下さい。

<朗読>

最後に、朗読の攻略法です。

英語はアクセントのある音節を高く上げる傾向がありますが、ロシア語は逆です。また、平叙文や疑問文のイントネーションは英語と全く違いますので、テキスト付属のCDなどで発音練習する必要があります。NHK講座はテキストが少し短すぎて検定試験攻略には直結しないように思いますが、朗読についても検定試験過去問についている3級の聞き取り問題の音声CDを使って発音練習すると良いでしょう。

ロシア語検定試験はとにかく過去問数回分をやってみることが何よりの近道です。ロシア語検定試験過去問は解答とともに大学で利用することができます。名古屋校舎ではメディアゾーンに、豊橋校舎ではLL自習室の検定試験問題をおいてある棚がありますので、ぜひ利用してください。

ハンゲルの各種検定について

国際コミュニケーション学部 片 茂永

近年、韓国文化への関心が高まる中、ハンゲル勉強に挑戦する人々が年々増えています。それ自体はとても微笑ましいことではありますが、しかしそれが1回きりの好奇心に終わらないためには、検定試験に合格しておくのもいい方法かと思います。とはいってもハンゲルを勉強してから挑戦できる検定試験には一体どういう種類のものがあるかよく分からないと答える学生が多かったので、その種類や受験方法についてご紹介したいと思います。

一つ目は、韓国語能力試験です。これは韓国の教育部が外国人に対する韓国語教育を目的に開発し実施する検定試験です。級別は、1級から2級(初級)、3級・4級(中級)、5級・6級(上級)となっていますが、通常の級と逆に難易度が設定されていますので注意が必要です。級別レベルですが、1級は基本文型と基礎語彙1,000語程度を用いた短い文を読み、理解し、簡単な挨拶、慣用的な表現が可能な程度を要求します。

2級は平易な韓国語を話し、読み、書きができ、基本語彙を1,500～3,000語程度用いた文章を理解、簡単な対話が可能な程度です。3級は日常生活において語彙に不便がなく、よく使われる言葉、文章をゆっくり聴けば充分理解でき、短い文で意思伝達が可能な程度。そして4級は、日常言語の使用は充分可能で、電話での問題処理も可能、一般文章の構造はほとんど理解できる程度です。なお5級は、日常言語活動において不便がなく、文書(新聞記事、説明文、書簡等)やテレビ・ラジオのニュース、平易な解説等を理解し、自分の意見を述べられる程度。6級は高度な言葉、文書(新聞、雑誌、教養書、

文芸作品等)やテレビ・ラジオ・講演等の内容を充分理解し、文書又は言葉で正確に伝達でき、討論で自分の意見を正確に述べられます。

二つ目はハングル能力検定試験です。この試験は南北(大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国)の、いずれの正書法(綴り)も認めたハングル検定試験ですが、1級・準1級では面接もあります。主催は東京都港区にあるハングル能力検定協会です。級別は1級・準1級・2級・準2級・3級・4級・5級です。

級別レベルですが、1級は高度な内容(一般社会の常識の範囲)のハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。常識・経験・知識・判断など積極的に用いて、記述された事実を様々な視点から検証しつつ読み解くことができます。本国で授業が聞けますし、ハングルで討論ができます。準1級は400時間程度の学習レベルですが、つまり高度な内容(一般社会の常識の範囲内)のハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。映画やテレビ、ラジオ放送が十分に理解できますし、スピーチ、通訳ができます。2級は200~300時間程度の学習レベルで、日常生活や職業上の用務を果たす上で必要な、一般的なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。電話で会話ができ、新聞、雑誌等を読んでほとんど理解できます。

準2級は、150~180時間程度の学習レベルですが、日常生活に必要な一般的なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。電話で簡単な会話ができ、辞書を引いて新聞、雑誌等を読んである程度理解できます。簡単なメールを読んだり書いたりもできます。

3級は120時間程度の学習レベルで平易なハングルを聞き、話し、読み、書くことができます。ホテルで予約したり郵便局で手紙を出したりもできます。駅などの窓口で用を足すくらいの簡単な会話ができます。基本的な説明文、広

告文などが理解でき、簡単な文章を正しく書くこともできます。

4級は50~60時間程度の学習レベルで、基礎的なハングルを読み、書き、聞き取ることができます。初歩的な語句で簡単な挨拶や紹介ができ、ある程度辞書を使うことができます。基礎的な単語で短い文章を書くことができます。

5級は、20時間程度の学習レベルですが、ハングルを習い始めた初歩の段階です。ハングルのごく短い文を読み、書き、聞き取ることができますし、1から10まで数えることができます。決まり文句としての簡単な挨拶もできます。

三つ目は通訳案内業(ガイド)試験です。これは、外国人観光客のガイドとして活躍するために、都道府県知事が発行する免許で、試験は難しく収入は経験と実力によって差が出てきます。外国人に日本の文化・地理・歴史を紹介するのが主な仕事ですがハングルは英語よりは甘いらしいです。レベルですが、韓国語能力試験4・5級、ハングル検定2級程度の語学力に加え、旅行業に必要な日本についての一般常識です。

以上、三つのお試験を紹介してみました。皆さんはどれに挑戦しますか?

ハングル検定試験を受験して (インタビュー)

短期大学部 2年 戸澤 智美

(ハングル検定3級の合格おめでとうございます。以前、ハングル語がとても身近な存在としてあったと聞きましたが、どんな環境だったのか教えてください。)

母親が韓国出身なので、子供の頃からハングル語を耳にしていました。なので、勉強したというよりも、自然に身につけていたという感じです。初めて話した言葉も、「オンマ(日本語: